

日本の現代作家

大学院博士前期課程 異言語・文化専攻 言語文化コース

三浦 知佐子



図書館には実に多くの本があります。しかし外国語大学の図書館であるという理由から、外国語学に関する本もしくは外国の歴史・文化に関する文献が多数を占め、その他の種類はあまり無いだろうと思ってらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。そんなことはありません。図書館には外国語学に関する本などの他にも物理学、天文学、検定試験問題、旅行本、各種雑誌まであります。

そんな中、図書館本館第一閲覧室の右奥に『学生の皆さんに人気のある文学作品 日本の現代作家』コーナーがあることをご存知ですか？昨年の暮れに登場したこの新しいコーナーには、今まで図書館にあまり配架されることの無かった現代の作家が書いた小説が置かれています。ここに集められた作者は主に図書館で働いている学生が作者名を挙げたものです。

ある日、「好きな小説家の名前を挙げてくれませんか。」と職員さんに言われ、それから学生アルバイトの面々がそれぞれ好きな作家名を挙げていきました。そして過ぎること数日．．．図書館に『日本の現代作家』コーナーが出来たのです。最初は10名前後の著者の作品が配架されていただけでしたが、今現在（2007年5月現在）コーナーに名前があるのは総勢36人の作家。そのうちの何人かを作品とともに紹介しましょう。

乙『ZOO』、村上春樹『海辺のカフカ』、森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』、映画化された作品としては、伊坂幸太郎『アヒルと鴨のコインロッカー』、市川拓司『恋愛写真』（映画題『ただ、君を愛してる』）、江國香織『間宮兄弟』、小川洋子『博士の愛した数式』、東野圭吾『手紙』、リリー・フランキー『東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン』、などがあり、これらの他にも今までに映画化された本もこれから映像化される本も多数配架されています。映画を観る前または観た後に本を読むもよし、映像化など関係なく作品を読むもよし、気になる本をどんどん読んでみてください。

このコーナーの本は作家名の50音順に並んでいるので、借りたい著者の本を探すうちに気になる作者・作品を新たに見つけるかもしれません。また、図書館ホームページの「本学図書館の特徴的データベースゾーン～体系的に紹介しています～」内にある「本学の学生の皆さんが選んだ人気作家 日本の現代作家」のリンクをクリックすると、『日本の現代作家』に分類されている作者の名前や生まれた年の情報が表示され、さらに画面右横にある「検索開始」ボタンを押すと、図書館にあるその著者の作品の検索結果がすぐに出てきます。このような検索方法も活用することをおすすめします。

これからも少しずつ作家数、小説数ともに増え続けるこのコーナー。ぜひ利用し、お気に入りの小説家や本を見つけてください。

なお、作者・作品数は増えていく一方のため、『学生の皆さんに人気のある文学作品 日本の現代作家』コーナーにはいずれ入りきらなくなるでしょう。その際、以前配架されていた著者の小説は通常配架、つまり『日本の現代作家』コーナーではなく、分類番号に沿って大棚に配架され、新たな小説家の作品と入れ替わることになります。

みうら ちさこ